

遠隔地の友好交流関係にある「青森県鶴田町」と「鹿児島県さつま町」で、生産する「りんご」と「みかん」の収穫期における繁忙期の『労力相互支援』の試みを、両産地の維持発展を目指す。
本事業を通じて、この枠組みを本格的なものとし、各産地で深刻な労働力不足に対する打ち手となる様に産地間連携の取り組みを実施する。

事業実施主体構成員

さつま町むつみ会援農協議会
組織員 農業者(水稻農家、みかん農家)
指導機関 さつま町農政課果樹担当
外部助言者 鹿児島県農業・農村振興協会農業労働力支援員

実績値 (目標値)

ア 青森県鶴田町の支援対象りんご農家2戸の求人の充足率は50%(8人)から100%(16人)となった。
イ 鹿児島県さつま町の支援対象みかん農家2戸の求人の充足率は50%(5人)から、100%(10人)となった。

令和5年度取組み内容

今年度の取組み内容

ア 労働力の需給状況の把握 (地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等)

労働場所：①鹿児島県さつま町 ②青森県鶴田町

①調査時期 5/20 アンケート実施 ①調査対象者 さつま町のみかん農家 8名 ①調査内容 ①経営体概要 回答者 8名 ②現在の雇用者概要 回答者 8名 ③労働力の不足状況 不足している(8名中8名) ④雇用は、いつの時期ですか。3月～8月8名中3名 9月～2月8名中7名 ⑤労働力確保のために、改善は何が必要(複数可) 雇用期間6名、地域との交流5名、1日の労働時間5名、労災保険充実4名、作業手順整備4名、給与の充実1名、雇用募集の徹底1名、諸手当の充実1名、

②調査時期 7/14 アンケート実施 ②調査対象者 鶴田町のりんご農家 30名 ②調査内容 ①経営体概要 回答者30名 ②現在の雇用者概要 回答者30名 ③労働力の不足状況 不足している(30名中16名) ④雇用は、いつの時期ですか。5月～7月30名中11名 9月～12月30名中16名 ⑤労働力確保のために、改善は何が必要(複数可) 給与の充実21名、雇用募集の徹底12名、職場環境改善(トイレ等)10名、雇用期間8名

イ 産地内での労働力確保・育成

臨時的雇用の1手法として、鹿児島県内には1日農業バイト「デイワーク」を活用している。さつま町の近隣には、人口の多い地域から、副業として働きに来られる人を募集している。現在、「デイワーク」の活用を、さつま町及び北薩地域振興局農政普及課さつま町駐在が中心となって検討されている。

今年度の取組み内容

ウ 他産地・他産業との連携による労働力確保

【実績】

- ア 募集した労働者の居住地：①青森県鶴田町 ②鹿児島県さつま町
- イ 労働場所：①鹿児島県さつま町 ②青森県鶴田町
- ウ 宿泊場所：①さつま町内の宿泊施設「湯田荘」
②五所川原市内の宿泊施設「ホテルサンルート五所川原」
- エ 募集条件：
- 募集人員：①5名(7日以上5名) ②8名(7日以上8名)
 - 労働内容：①みかん収穫業務 ②りんご収穫業務
 - 受入期間：①11月25日～12月1日 ②11月10日～11月16日
 - 稼働時間：①8時～16時30分(実働7.5時間) ②8時～15時(実働6時間)

エ 労働力等のマッチング及びデータベース化

オ 農業の「働き方改革」への取組

【実績】

- ・ 農業労働力に係る研修会
 - ア 開催日 令和5年7月4日
 - イ 研修会場 さつま町新生地区(新生みかん生産組合 集荷場内)
 - ウ 参加者 ・ 受講者 新生みかん生産者 8名 ・ 講師等 さつま町農林技術協会会員
 - エ 内容 ・ 農業労働力の現状 ・ 労働補完の事例と対策について

●鹿児島県さつま町→青森県鶴田町 11/10~の1週間りんご収穫 8名

- ・ 11/10鶴田町の受け入れ式
- ・ 相川町長の歓迎
- ・ 受け入れのりんご農家との打ち合わせ



りんご収穫の様子



リンゴ収穫にミカン農家



リンゴの収穫作業を行う鹿児島県さつま町のメンバー

「産地間連携」 鹿児島・さつま町から8人

鶴田

鶴田町と友好交流協定を結んでいる

鹿児島県さつま町の農業関係者が、10日から16日まで鶴田町に滞在し、リンゴの収穫作業に当たった。人手不足に悩むリンゴ生産者を応援しようと企画された。25日からは鶴田町の農家ら5人がさつま町を訪れ、ミカンの収穫作業に当たる。

(藤本耕一郎)

他産地・他産業との連携による労働力確保を支援する国の「農業労働力産地間連携等推進事業」を活用した試みで、さつま町からはミカン農家など8人が参加。鶴田町内の2生産者のリンゴ畑で、もぎ取りや選果作業に当たった。14日は時折雨の降るあい

くの天気だったが、参加者は熱心に作業に当たった。参加者の一人が就農予定だという会社員の宮路正昭さん(44)は「もぎ取り方にしても、ミカンとは全然違う。新たな発見といつか、勉強になる」と感想。受け入れた生産者の澁谷正行さん(70)は「収穫の仕方を教えたら、すぐにマスターしてくれた。とても上手だった。助かった。こういう事業はどんどん行っってほしい」と感謝していた。

さつま町からの一行のリーダー役で、ミカン生産者の祝迫和行さん(72)は「寒さもあって正直大変だった」と振り返りつつ、「ミカンにおいても今は労働力を集めるのが大変な状況にある。鶴田町から来てくれるのは助かる」と話していた。

(青森県) 東奥日報新聞の掲載記事

R 5 . 11 . 19

●青森県鶴田町→鹿児島県さつま町 11/25～の1週間 みかん収穫 5名

- 11/25さつま町の受け入れ式
- 上野町長の歓迎
- 受入れのみかん農家との打ち合わせ



みかん収穫の様子



南日本新聞(鹿児島県)

人手不足カバーで訪問 温州みかん リンゴ収穫

R5(2023)
(21金)

さつま町と友好交流協定を結ぶ青森県鶴田町の農業関係者5人がさつま町を訪れ、ミカン農家の収穫を手伝っている。それぞれの繁忙期の人手不足を補おうと、今年初めて農業支援を目的に互いの地域を訪問した。

両地域はこれまでも観光・文化交流が盛んで、人や特産品の往来は多い。2017年度以降はさつま町の有志が親善交流で赴いた際に、地元のリンゴ農家の作業を手伝うなどしてきた。今回は、両地域で今後一層不安視される農業現場での労働力不足解消などを視野に、繁忙期の相互訪問を計画。農林水産省の「農業労働力産地間連携等推進事業」の補助金を利用し、それぞれの交通費や宿泊費を工面することで実現した。

さつま町からは、ミカン農家の祝迫和行さん(73)ら8人が10、16日に鶴田町を訪ね、リンゴの収穫に奔走した。日によっては雪もちらつく環境に戸惑いながらもき方を学び、一個一個丁寧に集めた。

鶴田町側の5人は25日から12月1日まで滞在し、ミカンの収穫を支援。天候に恵まれた11月28日は、2人が祝迫さんの果樹園で「十万温州みかん」にはさみを入れ、次々とかごに詰めた。鹿児島初訪問の渋谷陽子さん(66)は「暖かさに驚く。作業車両を果樹そばまで乗り付けて運搬するなど、収穫の方法や環境も大きく異なり刺激が多い」と話した。

祝迫さんは「支援は大変ありがたい。今後も密に情報交換し、人手がより必要な時季などを見極めながら続け、両地域の発展につなげたい」と意欲を語った。

(山田大真)

青森・鶴田町 ↔ さつま町 繁忙期の農業 相互支援



①リンゴを収穫するさつま町の農業関係者＝青森県鶴田町②ミカン収穫に励む青森県鶴田町の農業関係者＝28日、さつま町広瀬



本事業取組みにおける成果項目

【実績】

ア 青森県鶴田町の支援対象りんご農家2戸の求人充足率は50%(8人)から100%(16人)となった。

イ 鹿児島県さつま町の支援対象みかん農家2戸の求人充足率は、50%(5人)から、100%(10人)となった。

次年度以降の取組み内容

- ・令和5年度に実施の内容精査と、労働提供者の経費や労賃との精査を行い、次年度に向けた課題整理を行う。
- ・現段階での労働提供者の募集や受け入れ農家の選定は、行っていない。